通信教育資料「初等教科研究・国語」（書写を含む）（計６ページ）

～「おまんじゅうの中のあんこ理論」を理解しよう！～

小学校で学習する漢字の中に、囲われて閉じている部分が出てきます。第一学年の25文字目までを（「一」から右に進み「三」まで）例に挙げると、それは、

5つあり

学　年　別　漢　字　配　当　表

第一学年	一 右 雨 円 王 音 下 火 花 貝 学 気 九 休 玉 金 空 月 犬 見 五 口 校 左 三 山 子 四 糸 字 耳 七 車 手 十 出 女 小 上 森 人 水 正 生 青 夕 石 赤 千 川 先 早 草 足 村 大 男 竹 中 虫 町 天 田 土 二 日 入 年 白 八 百 文 木 本 名 目 立 力 林 六 (80字)

1、「右」の「口」

2、「音」の「日」

3、「貝」の「目」

4、「見」の「目」

5、「口」

囲う中に「点画」や「払い」など何もない時→左下と右下が互い違いに出る

囲う中に「点画」や「払い」などがある時→左下と右下の両足が出る

となります。

つまり、

互い違い→「右」、「口」

両足が出る→「音」、「貝」、「見」

となります。25 文字目以降でも示すと

互い違いになる漢字→「石」の「口」

「足」の「口」

「中」の「口」

「虫」の「口」

「名」の「口」

両足が出る漢字→　「四」

「車」

「早」の「日」

「草」の「日」

「男」の「田」

「町」の「田」

「田」

「日」

「白」

「百」

「目」

このことを「おまんじゅうの中のあんこ理論」と書写教育の中では言い

囲われている部分の中にある「点画」や「払い」を「あんこ」として

「あんこ」が入っていない場合→互い違いに出る

「あんこ」が入っている場合→両足が出る

と児童たちに例えてあげると、とても納得して書写の時間を楽しんで取り組んでくれます。授業の最初に黒板に「口」と「日」を書いてクイズ方式にして授業をしている教育現場の先生方も多いです。

しかし、「中」や「虫」だって中に「あんこ」が入っているじゃないかと思うかもしれませんが、これについては下記に「口」「日」「四」「中」「申」などの漢字で半紙資料を示しておきます。

資料 1

お万頭の中の「あんこ」理論

口

横が出る

縦画が出る

「口」の外側の画をお万頭の皮に例える。「口」はお万頭の皮だけで中味は無いので接し方は互違い

資料 2

日

万頭の中のあんこ

「日」のお万頭の中に「一」と、いう「あんこ」が入っている。その場合は縦画が両方共出る

「一」に限らず点や画等が入った時は全て縦画が両方共出る

資料 3

四白一玉国

「口」「八」「一」「王」これらが全て「あんこ」ではこれらを何故「あんこ」に例えたのか？

資料 4

その理由

中

「中」の中にあんこはなく「丨」は、お万頭に刺っている「串」となる

申

「申」の中に串は刺っているが「一」と、いうあんこがあるので両方の縦画が出る

また、皆様方のお名前の中にもこの理論が出てくる漢字があるかと思います。

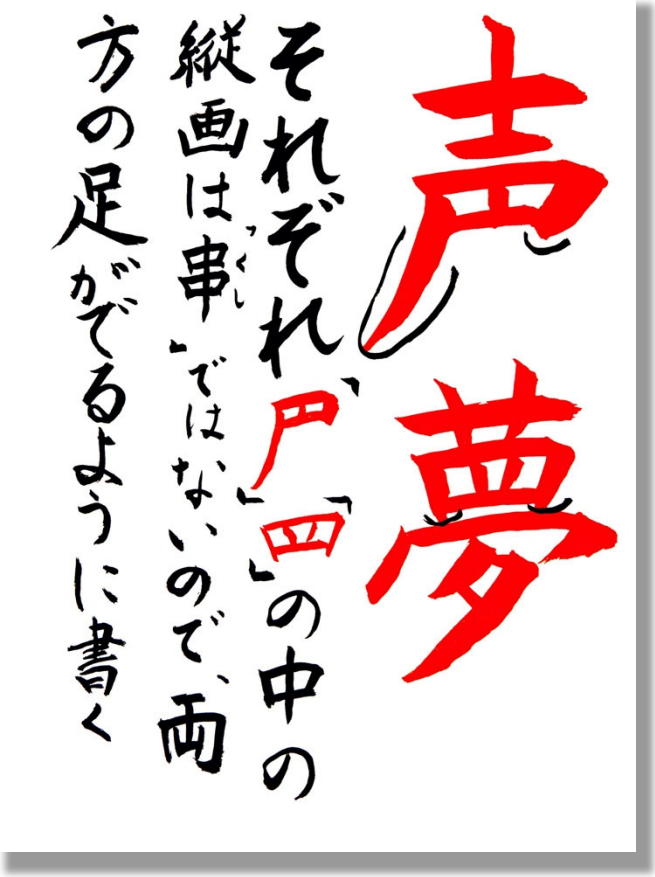
例えば「中田陽咲（なかたひさき）」さんという名前は

互い違いに出る→「中」と「咲」の「口」

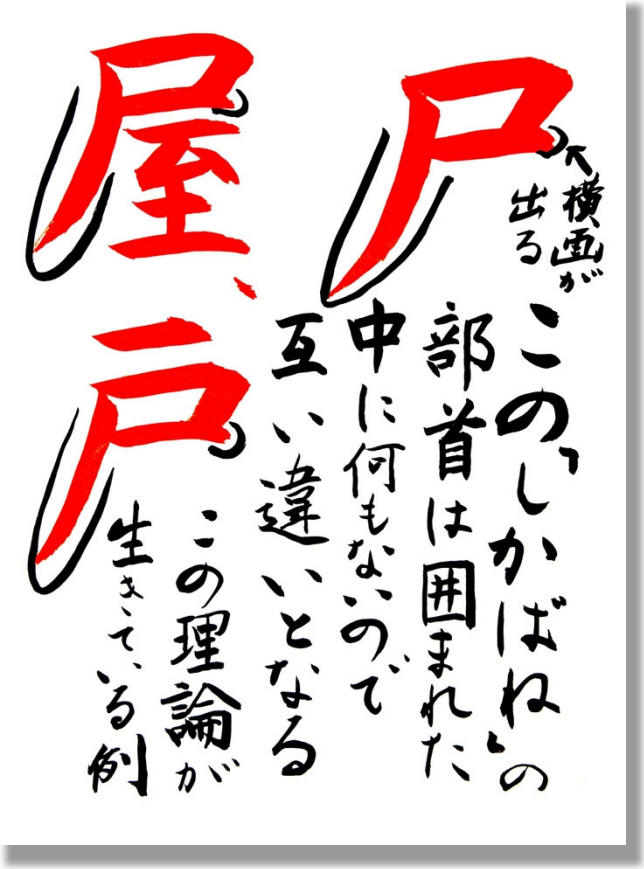
両足が出る→「田」と「陽」の「日」

また、「おまんじゅうの中のあんこ理論」上級編として下記に半紙資料を示しておきます。

資料２



資料１



資料 3



※この資料をアップにして「互い違い」「両足が出る」の漢字を見ると、よくこの理論が理解できると思います。